

過去1年の毎月分配型投信の資金流入額上位

	ファンド名(運用会社略称)	資金流入額	分配金累計
1	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型(アライアンス)	1551 億円	2000円
2	スマート・ファイブ(毎月決算型)(日興)	1279	480
3	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Cコース毎月決算型(為替ヘッジあり)予想分配金提示型(アライアンス)	1270	1900
4	東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)(東京海上)	976	360
5	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)(ピクテ)	698	600
6	ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド(毎月決算型)(ニッセイ)	607	1800
7	JPMベスト・インカム(毎月決算型)(JPMオルガン)	590	360
8	日本株アルファ・カルテット(毎月分配型)(大和住銀)	512	1200
9	中華圏株式ファンド(毎月分配型)(日興)	501	1160
10	日興レジェンド・イーグル・ファンド(毎月決算コース)(アムンディ)	461	1050

(注)QUICK資産運用研究所調べ。データは10月末時点。対象はETFを除く国内公募追加型株式投信のうち、毎月決算するタイプ。資金流入額は推計値。分配金は過去1年間の1万口あたりの合計で課税前

投信番付

毎月分配型の資金流入額

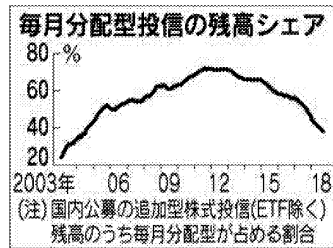
米国株運用など上位に

毎月分配型の投資信託から資金が流出している。この1年では8割の投信が資金流出超過となった。株式投信全体に占める純資産残高の割合も下がり続けている。その中で資金を集めているのはどんな投信か。

上位10本は株式で運用する投信と、株式や債券などに分散して投資するバランス型の投信に分かれた。毎月分配型の人気が高かった時期に資産残高を増やした、不動産投資信託(REI

T)型や先進国債券型の投信は10位までには入らなかった。

過去1年間での資金流入額が最も多かったのはアライアンス・バーンスタインが運用する「米国成長株投信Dコース」だった。米国株で運用し、分配金の額は決算前の基準価格に応じて決まる。米国株相場が堅調だったこ



とから分配金の水準が良好だった。

毎月分配型の投信では、運用成績に応じた分配金を出す動きもある。だが、この1年間に分配金額の変動があったのは上位10本のうち4本だけだった。

(QUICK資産運用研究所 小松めぐみ)